

# 令和元(2019)年度 病害虫発生予報 第8号

令和元(2019)年11月15日  
栃木県農業環境指導センター

## 病害虫を早期に発見し、発生初期から適切に防除しましょう！

予想期間 11月下旬～12月下旬 予報の根拠で、(+)は増加要因、(-)は減少要因を表す。

### 1 いちご ハダニ類

- (1) 発生予想 ・発生量：**平年並**
- (2) 根 拠 ・現在の発生量はやや少ない(平年比41%：ほ場率、平年比47%：株率)。(±)  
・向こう1か月の平均気温は高い見込み。(+)
- (3) 対 策 ・ほ場をこまめに観察し、増殖する前に防除を行う。  
・気門封鎖剤や天敵製剤を活用することで作全体の化学農薬の散布回数を減らし、ローテーション散布を行うことで抵抗性の発達を抑制する。  
・気門封鎖剤は卵に効果が低いため、5日程度の間隔をおき、複数回散布する。  
・葉かき後は薬剤がかかりやすいので、葉かき作業にあわせて薬剤を散布する。
- (4) 備 考 ・[薬剤感受性検定結果](#)を当センターホームページ(HP)に掲載中。

### 2 いちご アザミウマ類

- (1) 発生予想 ・発生量：**平年並**
- (2) 根 拠 ・現在の発生量はやや少ない(平年比30%：ほ場率、平年比11%：株率)。(－)  
・向こう1か月の平均気温は高い見込み。(+)
- (3) 対 策 ・低密度のうちにカウンター乳剤等のIGR剤を散布する。  
・花を観察して、1割以上でアザミウマ類が見られた時は、被害が大きくなる恐れがあるため、スピノエース顆粒水和剤等を散布する。  
・10月中旬までに開花が進んでいるほ場では、秋期のアザミウマ類の発生が多い傾向にあるので、注意する。
- (4) 備 考 ・[防除のポイントNo.19](#)、[薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。

### 3 トマト 黄化葉巻病(TYLCV)

- (1) 発生予想 ・発生量：**多い**
- (2) 根 拠 ・現在の発生量はやや多い(平年比329%：ほ場率、平年比50%：株率)。(+)  
・向こう1か月の平均気温は高い見込み。(+)
- (3) 対 策 ・ウイルスを媒介するタバココナジラミの侵入と飛散を防ぐ。ハウスの開口部(出入り口、側窓、天窗)に0.4mm以下のネットを張り、特に出入り口は2重にする。  
・黄色粘着板を設置してタバココナジラミの捕殺と発生状況の把握を行い、タバココナジラミが見られたらコロマイト乳剤等を散布する。  
・発病株は伝染源となるので、見つけ次第抜き取る。抜き取った株は放置せず、土中に埋設するか、ビニール袋などで密封し枯死させてから処分する。
- (4) 備 考 ・[防除のポイントNo.9](#)、[薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。

### 4 トマト 灰色かび病

- (1) 発生予想 ・発生量：**やや少ない**
- (2) 根 拠 ・現在の発生量は少ない(平年比0%：ほ場率、平年比0%：株率)。(－)  
・向こう1か月の降水量は平年並または多い、日照時間は平年並または少ない見込み。(±～+)
- (3) 対 策 ・施設内が多湿にならないように換気やかん水に注意する。また、循環扇や暖房機等を用いた通風により、施設内の湿度低下に努める。  
・発病葉、発病果や花弁は伝染源となるので速やかに取り除き、施設外で処分する。  
・予防を主体にセイビアーフロアブル20等を葉裏にもよくかかるよう散布する。  
・発生が見られたらポリオキシシンAL水溶剤等を散布する。
- (4) 備 考 ・[薬剤感受性検定結果①](#)、[②](#)を当センターHPに掲載中。

## 5 きゅうり ベと病

- (1) 発生予想 ・発生量： **やや多い**
- (2) 根 拠 ・現在の発生量は平年並（平年比 77%：ほ場率、平年比 112%：葉率）（±）  
・向こう 1 か月の降水量は平年並または多い、日照時間は平年並または少ない見込み。（±～+）
- (3) 対 策 ・施設内が多湿にならないように換気やかん水に注意する。  
・草勢低下は発生を助長させるので、適正な肥培管理を行う。  
・予防を主体に銅剤やダコニール 1000 等を散布する。
- (4) 備 考 ・[薬剤感受性検定結果](#)を当センターHP に掲載中。

## 6 きく ハダニ類

- (1) 発生予想 ・発生量： **やや多い**
- (2) 根 拠 ・現在の発生量は平年並（平年比 136%：ほ場率、平年比 44%：株率）。（±）  
・向こう 1 か月の平均気温は高い見込み。（+）
- (3) 対 策 ・薬剤がかかりやすい生育初期からの防除を行う。  
・葉裏をよく観察し、発生が認められたら下葉や葉裏にもよくかかるように丁寧に気門封鎖剤やスターマイトフロアブル等を散布する。
- (4) 備 考 ・[薬剤感受性検定結果](#)を当センターHP に掲載中。

## 7 その他の病害虫

作物名	病害虫名	現況	発生予想	作物名	病害虫名	現況	発生予想
いちご	灰色かび病	少	<b>やや少</b>	トマト	コナジラミ類	平年並	<b>やや多</b>
いちご	うどんこ類	少	<b>やや少</b>	きゅうり	うどんこ病	やや少	<b>平年並</b>
いちご	アブラムシ類	やや少	<b>平年並</b>	にら	ネダニ類	やや少	<b>平年並</b>
トマト	すすかび病	やや少	<b>平年並</b>	きく	アザミウマ類	少	<b>やや少</b>

### ○ イネ縞葉枯病

ほ場の再生稲（ひこばえ）は、媒介虫のヒメトビウカカの増殖源と縞葉枯ウイルスの獲得源になります。早期の丁寧な耕起により、次年産の本病拡大を防ぎましょう（[病害虫防除対策のポイント No. 17](#) を当センターHP に掲載中）。

- 同一系統の薬剤の連用を避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布しましょう。
- 花粉媒介昆虫のミツバチ、マルハナバチや天敵に対する影響日数に注意して薬剤を選択しましょう。
- 11月1日から1月31日は、「栃木県農薬危害防止運動期間」です。農薬は適正に管理し、容器のラベルをよく読み、正しく使いましょう。

### 1か月気象予報（予報期間11月16日から12月15日 11月14日気象庁発表）

平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。向こう1か月の平均気温は、高い確率60%です。降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。日照時間は、平年並または少ない確率ともに40%です。週別の気温は、1週目は、高い確率50%です。2週目は、高い確率60%です。3～4週目は、高い確率50%です。

#### 向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）

項目	低い（少ない）	平年並	高い（多い）
気 温	10%	30%	<b>60%</b>
降 水 量	20%	<b>40%</b>	<b>40%</b>
日照時間	<b>40%</b>	<b>40%</b>	20%

詳しくは農業環境指導センター（TEL 028-626-3086）までお問合せください。

病害虫情報発表のお知らせはツイッター「[栃木県農政部 \(@tochigi\\_nousei\)](#)」、農業環境指導センターホームページ（<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/index.html>）でもご覧になれます。